

# 高崎看護学校における 受験生確保のための取り組み

小川 哲史<sup>†</sup> 関 則子 佐藤 陽子 水江麻紀子第76回国立病院総合医学会  
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 77 No. 6 (389–393) 2023

## 要旨

国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校（当校）は高崎駅から1 kmに位置しており、定員は80名、うち指定校による推薦枠は35名である。受験生確保のための取り組みとしては、推薦指定校をはじめ県内外の高校の進路指導教諭への説明会、高校および業者主催の受験生を対象とした説明会、さらにオープンスクールの開催などである。受験生および高校教諭へのアンケート結果の集計による当校志望理由は、①交通の利便性などの好立地、②大学等と比べ安価な授業料、③実習や講義が実践的で充実、④国家試験の高い合格率、⑤NHO病院への就職など卒後が安定、⑥オープンスクールでの好印象、⑦卒業生による推薦、などであった。定員を80名に増員後6年間の平均応募者数は推薦が34名、一般が111名で、合格者のうち入学辞退者は平均22名で80名の定員をほぼ充足した。

近年、少子化による受験生の減少と大学志向、また看護大学の新設等によりNHO附属看護学校への入学者は全国的に減少傾向にある。現在の受験生世代はZ世代と呼称され、デジタルネイティブで生まれたときからSocial Networking Service (SNS) の社会で生活しており、その特徴として、人生のコストパフォーマンス至上主義的な考え方や心理的安全性を求めること、などがいわれている。このような若者にアピールするためには、4年制大学や他の看護学校と比べたNHO附属看護学校の利点を明確に積極的に示すことが必要である。具体的には、地域の第一線の医療現場で充実した臨床実習を通して実践的で最新の知識や技術を修得できることやNHO病院への就職など卒後の進路が安定していることなどが考えられる。その広報手段としては、学校のホームページやSNS、またオリジナル動画などにより、学生の目線で日常的に接しているツールを用いての説明が肝要と思われる。さらに入学後に休学や退学者が増加傾向にあるため、学生のメンタルケアにも十分に配慮し心理的安全性を確保する努力が、今後はさらに重要になると考える。

キーワード 看護学校, 受験生確保, Z世代

高崎総合医療センター附属高崎看護学校 <sup>†</sup> 医師

著者連絡先：小川 哲史 国立病院機構高崎総合医療センター 院長 附属高崎看護学校長

〒370-0829 群馬県高崎市高松町36番地

e-mail:ogawa.tetsushi.gb@mail.hosp.go.jp

(2023年3月9日受付 2023年8月4日受理)

Effort to Secure Applicants at NHO Takasaki General Medical Center School of Nursing

Tetsushi Ogawa, Noriko Seki, Yoko Sato and Makiko Mizue

NHO Takasaki General Medical Center School of Nursing

(Received Mar. 9, 2023, Accepted Aug. 4, 2023)

Key words : school of nursing, effort to secure applicants, generation z



図1. オープンスクール

A：実際の病室環境を再現した実習室で、実際の医療・看護用品を使い、在校生が学習内容や方法を説明する。

B：高機能シミュレータを使用し、一部の機器を実際に体験する。看護学校で学ぶ内容の把握や、教材の充実を実感する機会になる。

C：1-3年生までの在校生との交流会は、入試対策や入学動機、学生生活、講義や実習のこと、国試対策など学生ならではの視点での盛んな交流がされている。

## はじめに

近年、わが国の少子化による受験生の減少と大学志向、それにとまなう看護大学の新設などのため、国立病院機構（NHO）附属の看護学校は定員の削減や閉校となった学校もある。しかし、地域医療においてNHO附属の看護学校が果たしている役割を考えると、その規模の縮小や閉校による地域医療への悪影響は大きいと思われる。本稿では国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校（当校）の受験生確保のための取り組みと成果について考察を加えて述べる。

集定員数は1,209人で、うち高崎市内の総定員数は485人で県内の約40%を占める。4年制の国公立大学の看護学科、看護学部は、群馬大学医学部と県立県民健康科学大の2校で、いずれも高崎市に隣接する前橋市にあり定員は各々80名である。

入学金や授業料など入学から卒業までに納入する金額は、受験案内書<sup>1)</sup>等で調べた限り、当校が1,850,000円であるのに対し、高崎市内の3大学は3,600,000～6,550,000円で、その他の3年制専門学校は2,040,000円と3,440,000円と当校と比較し高額であった。また国公立の2大学はいずれも2,143,200円であった。

## 当校の概要と群馬県内の看護師養成所

高崎総合医療センターは明治6年に東京鎮台第一分営高崎営所病院として創設され、昭和20年に国立高崎病院となり、平成21年病院の新館建設にとまない、高崎総合医療センターと改称した。附属看護学校は、昭和46年に1学年定員40名で開校し、平成29年（2017年）に看護学校の新校舎移転にとまない定員を80名に増員した。

当校は高崎市の中央部で、高崎駅から約1kmと交通の便がよく、高崎市役所等の公的施設や市立の音楽センター等の文化施設に囲まれた学習に適した環境に位置している。

群馬県内に看護師養成所は21校あり、4年制大学が7校（国公立2校、私立5校）、専門学校が14校（3年課程：10校、2年課程：4校）である。高崎市内には4年制大学が3校、専門学校は4校で、うち3年課程は当校を含め3校である。県内全体での全募

## 受験生および入学者確保のための取り組み

当校における受験生確保のための取り組みは以下のようなものである。

1) 推薦指定校の教諭を対象とした学校説明会を毎年6月に開催。

2) 県内および近県の高校を訪問し、進路指導教諭への説明を年2回実施。

①6-7月：当校入試方法や在学生の近況などを報告。

②10-11月：一般入試募集要項などの案内。

3) 高校および業者主催の説明会に参加。

年平均で25回ほど、毎年200-300名の学生が参加。

4) 受験生および保護者を対象としたオープンスクールの開催（図1）。

年10回ほど開催し、看護技術の体験や在校生との交流などを目的に実施している。

オープンスクールは、実際の病室環境を再現した

表1. 入学応募者数および合格者数と合格率

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推薦 (応募)	32	31	30	40	38	33
(合格)	30	30	30	35	37	32
合格率(%)	93.8	96.8	100	87.5	97.4	97.0
一般 (応募)	152	116	111	81	104	107
(合格)	80	77	74	57	67	69
合格率(%)	52.6	66.4	66.7	70.4	64.4	64.5

表2. 入学者充足率および一般入試辞退率

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
定員	80	80	80	80	80	80
推薦	30	30	30	35	37	32
一般	59	48	53	49	46	43
入学者数	89	78	83	84	83	75
入学者充足率(%)	111.3	97.5	103.8	105.0	103.8	93.8
一般(辞退者数)	21	29	21	8	21	26
一般辞退率(%)	26.3	37.7	28.4	14.0	31.3	37.7

表3. 国試合格率と卒業率

年度	2017	2018	2019	2020	2021
国試合格率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	98.8
(合格者/卒業生)	44/44	38/38	85/85	70/70	80/81
卒業率(%)	97.8	95.0	94.4	86.3	96.4
(卒業生/入学者)	44/45	38/40	84/89	69/80	80/83
留年者	0	1	1	3	0
退学者	1	1	4	9	3

校内の実習室で行い、高機能シミュレータなどを使用し参加者に実際に体験してもらい、また交流会では在校生と気さくに会話できるよう図1Cのように少人数で行うなどの工夫をしている。2022年はコロナ禍のため人数制限での実施であったが、制限上限の参加者（学生：238名、保護者：202名）があった。

#### 当校の志願者と入学者の経時的な推移

定員を80名に増員した2017年から2022年の入学応募者数および合格者、合格率を表1に示す。2017年以降、平均応募者数は146名（1.8倍）で、うち推薦が34名、一般が111名で、推薦による合格者は平均32名で、定員の約40%を占めている。一般応募者の

倍率は平均1.4倍で、合格率は平均63%であった。

ついで、表2に同期間の入学者数および入学者充足率、一般入試辞退率を示す。一般合格者における入学辞退者は8-29名、平均22名で、多くは県内の国公立大学への進学者であった。各年の入学者充足率は、辞退者が想定より多かった2018、2022年を除き、100%以上であった。

また、入学者の居住地はほとんどが県内で、県外者は毎年1-3名のみであった。

#### 国家試験合格率と卒業率、および卒後の就職先

当校の国試合格率は表3に示すように、5年間の不合格者は1名のみと非常に良好であるが、近年、

表4. 卒業生の就職先

年 度	2017	2018	2019	2020	2021
NHO (%)	90.9	100.0	95.3	92.9	93.9
NHO数／卒業者数	40/44	38/38	81/85	65/70	77/82
県内 (%)	84.1	100.0	87.1	84.3	72.0
県内数／卒業者数	37/44	38/38	74/85	59/70	59/82

NHO: 国立病院機構

表5. 当校を志望した理由

1. 交通の利便性が高いなど、通学や学習の環境がよい
2. 教育の質が高く、近隣大学と比べ偏差値は同レベルである
3. 近隣の大学等と比べ授業料が安い
4. NHO病院の附属であり、実習や講義が実践的で充実している
5. 国家試験対策が充実しており、合格率が高い
6. 県内の3つのNHO病院への就職など卒後が安定している
7. 教職員が説明会等で積極的に勧誘しており、とくに在校生を交えたオープンスクールの評価が高い
8. 卒業生による推薦

留年者や退学者がやや増加傾向にある。

卒業後の就職先は9割以上がNHO病院に就職しており、とくに高崎総合医療センターはじめ、県内の渋川医療センターと沼田病院へ多数就職している(表4)。

### 当校を志望した理由

当校受験生の入学願書やアンケートの結果、および推薦校の進路指導教諭へのアンケート結果から集計した当校を志望した理由を表5に示す。志望理由の多くは重複していたが、オープンスクールでの好印象や、親や姉をはじめとする親族である当校卒業生から薦められたことが大きな動機となることも多かった。

### 考 察

高校生を対象とした進路に関するさまざまなアンケートによると、女子高校生がなりたい職業では、看護師は常に上位にランキングされており、長年にわたる人気職業である。看護師になるためには、当校のような専門学校か4年制大学の看護学科を卒業する進路があるが、わが国は急速な少子高齢化によ

る受験生の減少と、若者の大学志向、さらにそれとともに看護大学の新設などもあり、NHO附属看護学校への入学者は全国的に減少傾向にある。

現代の若者、特に1990年中盤以降に生まれた若者はZ世代といわれ、これまでの世代と大きな相違があるといわれている。平賀は、この世代は社会が沈滞し閉塞感の中で生まれ育ったため非常に現実的な思考をして、生まれながらのデジタルネイティブで、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)社会に生きているとし、その特徴として、合理性と生産性を行動基準とする人生のコストパフォーマンス至上主義的な価値観を挙げるとともに、心理的安全性を居場所に求める傾向が強いている<sup>2)</sup>。また、受験界大手の受験生向けサイト等では、看護学校を選ぶ際には、通学距離や就学期間、学費、附属病院の有無、国家試験合格率などの検討が勧められている。

このような社会や若者の傾向を考慮して、私たちNHO附属看護学校は4年制大学や他の看護学校との違い、メリットをアピールすることが肝要と思われる。その要点と考える事項を以下に記す。①短期間に4年制大学と同じ資格が取得でき、授業料も安い。②地域の医療現場で勤務する医療者による直接の指導のため、実践的で最新の知識や技術を学べる。

③病院附属の学校であるため先輩看護師との交流が容易であり、また最先端の機器に触れるなど臨床実習が充実している。④補習を含めた懇切丁寧な試験対策を行うことで、常に高い国家試験合格率を保っている。⑤附属病院への就職など卒業後の進路の心配が少ない。このようなNHO附属看護学校ならではの特徴を、オープンスクールや各種の説明会で、上からではなくフラットな目線と姿勢で説明すると、人生のコスパを優先し心理的安全性を求めるとされる世代の心に響くと思われる。当校では休学者や退学者が増加傾向にあり、Z世代の学生のメンタルケアに十分な配慮と、予防や対策、心理的安全性の確保が急務と思われる。

さらに、今回のシンポジウムでも受験生確保に有用な取り組みとして発表された、看護学校のホームページの作成やSNSの活用、また学生の参加等によるオリジナル動画などによる広報活動、さらに近隣の駅や電車、バスなど市中における看護学校の広告など、当校でも早急に取り組もうと考える。

---

## ま と め

---

NHO附属看護学校への入学者は全国的に減少傾

向にある。当校では、4年制大学や他校との差別化を図り、当校の特徴を説明会やオープンスクールで高校生へ説明し、積極的な勧誘で受験生の確保に努めている。今後はさらにIT等を活用するなど、現代の若者に響くような工夫も必要と考える。

〈本論文は第76回国立病院総合医学会シンポジウム「受験生から選ばれる看護学校になるためのアイデア募集」において「高崎看護学校における看護学生確保の取り組み」として発表した内容に加筆したものである。〉

利益相反自己申告：申告すべきものなし

---

### [文献]

- 1) 看護・医療系学校最新入学全ガイド2023年度版. 東京：さんぽう；2022.
- 2) 平賀充記. 今どきの若手看護職の気持ちを知ろう. 看護 2021；73；12-7.